

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500480	事業の開始年月日	2018年4月1日	
		指定年月日	2018年4月1日	
法人名	コスモスケア株式会社			
事業所名	グループホームコスモス八乙女 ユニット名：すみれ			
所在地	(〒 981-3135) 宮城県仙台市泉区八乙女中央3丁目9番23号			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2023年2月27日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットの理念 1、感謝するところ 2、お一人お一人に寄り添う心 3、支え合えるチーム創りを掲げています。
コミュニケーションに消極的な入居者様も、話しかければ会話が花が咲きます。お邪魔にならない配慮はしながらも、職員から積極的に声をかけ、日々生き活きとした生活が送れるように心がけています。
食事作りに力を入れ、入居者様の趣向を聞き出しながらのメニュー作りも行なっています。味はもちろん見た目にも楽しい行事食を作るなどの演出が好評です。
コロナ禍で感染状況も見ながらではありますが、令和5年度は外出頻度を増やしていきます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年3月6日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】 すみれユニット ①感謝する心②お一人お一人に寄り添う心③支え合えるチーム創りたんぼぼユニット①思いやる心②チームの一体化③皆が笑顔で過ごせる場所</p> <p>【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等 母体法人「コスモスケア株式会社」は、2000年に創業し「利用者様主体のケア」「地域福祉の向上」「介護サービスの向上」を運営理念に掲げ、仙台市を中心に訪問・通所・短期入所・福祉用具・小規模多機能型居宅介護など、25事業所を運営している。事業所は地下鉄八乙女駅より徒歩5分ほどの住宅地の一面にある、2階建て2ユニットで運営しており、敷地内には法人本部がある。近隣には七北田川が流れ、七北田公園の四季折々の自然が楽しめる。保育園、コンビニや商店等が近くにあり、利便性が良い環境である。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】 運営推進会議は、町内会長、地区社協会長、地域包括職員が本社に集まり、Webカメラで事業所の様子をライブ配信し状況報告を行っている。火災・地震の他に風水害時の避難計画書が作成され、敷地内にある法人本部と協力体制が構築されている。看護師が配置されており、医療連携が図られ、看取りの実績もある。一人ひとりに合わせた支援方法について、ユニット職員全員と他ユニットの職員からも意見を聞いて評価する等、チームケアを実践している。キャリアパスの導入や資格取得支援制度があり、全職員が法人内部や外部研修へ参加できるよう取り組んでいる。海外留学生の短時間雇用や、週休3日制を導入し働き方を選択できるようにする等、職場環境を整えたことで残業時間が減少したり、リフレッシュの機会が増えるなど改善に繋がった。食事委員会の担当職員が献立を考え、季節の旬の食材を取り入れながら調理している。また、おやつをバイキングにする等、利用者が自分で選択できるメニューを取り入れたり、楽しい食事になるよう工夫している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームコスモス八乙女
ユニット名	すみれ

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス八乙女 ）「ユニット名:すみれ」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念 1、感謝するところ 2、お一人お一人に寄り添う心 3、支え合えるチーム創りを毎日唱和している。	職員は理念を朝礼で唱和し、年度末にケアの振り返りを行っている。運営上の改善策や、ケアの見直し時などにも職員から理念を意識した発言や意見が出されることもある。職員全体で、チームケアを意識し、互いに思いやりを大切にしながら実践できるよう取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	雪かきは、近隣まで手を伸ばして実施している。町内会の花壇の一部を任せて頂いている。	コロナ禍で、地域行事への参加やボランティアの受け入れは自粛していたが、町内会長とは情報交流を図るなど関係継続に努めている。町内会の花壇の手入れや近隣商店での買い物、散歩時に挨拶を交わすなどの交流を継続し、近隣の高齢者宅の雪かきをする等、事業所のできる範囲の地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域との交流はほぼない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回開催している。	メンバーは、町内会長・地域包括職員・地区社協会長・法人本部課長・管理者である。町内会長、地区社協会長、地域包括職員が本社に集まり、Webカメラで事業所の様子をライブ配信している。2ヶ月に1回、会議を開催し運営や利用者状況の報告を行い、助言を得ており、参加できなかった委員には報告書類を送付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との直接のやり取りは、介護保険法令等の内容確認にとどまっている。	介護保険や後見人制度などについて相談している。生活保護課の担当者とは、常に連絡を取合い連携している。市担当者には、外部評価結果や目標達成計画を提出して情報共有している。各種情報交流が図られるような関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グレーゾーンの事例検討など、取り組んでいる。	毎月ユニットごとにケアを振り返っている。3ヶ月ごとに報告事例からテーマを絞り、身体拘束廃止委員会で話合っている。発生した時の背景や理由を確認し、適正な対策を検討後に記録し、改善できたかを評価している。防犯上、玄関にセンサーを設置し、居室には、状況によりセンサーや介護ロボットの予測型見守りシステムを活用している人もいる。使用する場合には、家族へ説明し同意を得て、必要の有無を適時検討し、意識して取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修機会を設け、努めている。	マニュアルを基に研修を行い、ケアを振り返りながら知識の確認などしている。ミーティング時には、利用者の状態を職員で共有し、常に職員同士で声をかけ合える環境づくりに努めている。上司は職員と年2回面談し、メンタルヘルスケアを実施している。利用者の状態により、介助方法の見直しも行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加するなど、知識を持つことに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にはおよそ2時間ほどかけて、質問も受け付けながら説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	適宜、家族に連絡を取った際にはご意見を伺うようにしている。	窓越しでの面会を継続し、家族から意見・要望が聴けるように取組んでいる。また、介護計画作成時にも家族からの意見や要望を聴いている。コロナ禍時、家族からの要望は、直接顔を合わせて行う面会、利用者の部屋への入室、一緒に外出がしたいなどがあった。要望は状況を確認しながら、都度判断して対応している。家族同士の交流の機会はなく、最近では、運営推進会議への出席もない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや面談の機会を設けている。	年2回の個人面談、毎月のミーティングや随時、意見や要望を聴く機会を設け検討している。休憩スペースを設けて欲しいとの要望に応えたり、他の要望も検討している。週休3日制を導入し、働きやすい職場環境を整えたことで、残業が減ったり、リフレッシュの機会に繋がったりした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を整え、努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修機会を設け、努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内他事業所と一緒に参加する研修や、ミーティング等を設けている。	法人主催の研修もしくは外部主体の研修に全職員が1回以上は参加している。同法人の他事業所の職員と研修を通して交流する機会があり、情報交流を行ったことで各自が自信をもてるようになる等、意欲向上や技術向上に繋がっている。また、管理職同士の交流があり、情報交換等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当や管理者が中心となってアセスメントを取り、入居後はユニットの職員を中心に関係作りに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は特に細かく連絡をとりあうことで、関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントとの相違がないかを確認しながら、その時に必要なサービスについては都度検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることを念頭に置きながらの支援に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の力と施設の力はそれぞれであることを念頭に置きながらの支援に努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出は難しいが、できる限り努めている。	面会はオンラインでも可能であるが、リビング等での窓越しの面会がほとんどである。絵手紙を出したり、毎日電話するなど、本人の希望を聞きながら関係が継続できるよう取り組んでいる。リビングにも家族写真を飾り日常的に話題にするなど、工夫しながら関係性が途切れないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えも随時行いながら、良好な関係性構築と継続に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	引っ越しした施設でのことを伺うなど、努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活のなかで、本人の思いを汲みとれるように努めている。	家族から嗜好品や習慣などを聴いている。利用者の思いを汲み取れるよう、言葉かけや質問の仕方等を工夫し、職員間で検討・共有している。プライバシーに配慮し、居室でゆっくり話を聴くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期のアセスメントに加えて、日々の会話のなかでも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティング等を通じて努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者の意見を踏まえながらの作成に努めている。	介護計画は、3ヶ月あるいは6ヶ月ごとに見直している。利用者・家族の希望を確認し、全職員からも利用者の様子を聴き取っている。医師や看護師の職員からの意見を聴く等、医療面も合わせ全体的な視点から利用者の状態を把握している。収集した情報から、利用者主体のケアを実践できる介護計画を作成し、チームケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を含めた情報共有を通して努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関係者の意見を踏まえながら、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は十分ではないが、支援に努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一方的に決めることなく、必要な医療が受けられるよう情報提供に努めている。	利用者の希望するかかりつけ医を受診できるが、ほとんどが協力医療機関による往診を受けている。外部受診の際は、原則看護師の職員が同行で、希望により家族も同席することもある。利用者の状態を文書にまとめ、他の職員も確認し、医師に伝えている。受診結果は、家族に報告・説明等を行い、職員間で情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携を重要視して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	カンファレンスの開催を依頼しながら必要な連携が図れるように努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	D r の意向を踏まえながら、施設側からの確認も多く行いながらの支援に努めている。	契約時に「看取りに関する指針」を説明し、看取りには再度説明をして同意を得ている。看護師の職員を配置し、医療連携体制が整えられており、看取りの実績がある。看取り介護計画を作成して、職員間で共有しながら支援している。看取り時には、家族も一緒に泊りながら過ごすことができる。年1回、職員研修を行い、看取り後の振返りは本社課長も参加して行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応のマニュアルにそって、事例も踏まえた情報共有に努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応のマニュアルにそって共有しており、また、運営推進会議において、地域との関係作りに努めている。	災害マニュアルの他、風水害時の避難計画がある。年2回避難訓練を行い、内1回は夜間想定訓練を実施し、振返りを行い検討事項を記録して、運営推進会議時に報告している。災害時は、法人内の他事業所への避難も想定し連携を図ることや、感染症対応策の仕組みも整えている。備蓄品は5日分を建物内に保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの見直しも適宜行いながら支援している。	年1回、研修を行っている。ヒヤリハットの事例を挙げ検討したり、その都度、職員間で話し合う機会を設け、職員同士で注意喚起しながら支援している。利用者への声のかけ方やコミュニケーションのとり方なども意識し、体験から学びを得て改善に努めるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援を意識しながらのケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様主体のケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には服装も選択して頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	部分的にでも一緒にできるように支援している。	食事委員会を設け、職員が献立を考え、季節の食材を取り入れ調理している。法人の管理栄養士に、定期的なチェックや相談をしている。利用者は盛り付けなど、できることを一緒に手伝っている。利用者の嗜好に合わせ選択できる機会を設け、ラーメンは味噌か醤油を選べたり、おやつはバイキングにする等、工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養補助職員も活用しながら提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に検討した回数で口腔ケアをしている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り自立した排泄ができるように努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、その人のタイミングに合わせてトイレで排泄ができるように誘導し、自立に向け支援している。自立度の高い利用者も排泄状況を記録し、状態把握に努めている。夜間は睡眠を妨げないように配慮して、トイレ誘導や、排泄用品の活用をしている。軽運動と食物繊維の摂取により便秘予防している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけではない支援に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	三日に一回を基本とし、希望次第では日にちをずらしながら支援している。	入浴は基本3日ごととし、日中の時間帯に希望や状態を確認しながら入浴している。浴室の壁に飾りつけをし、行事湯（ゆず湯・菖蒲湯）等、楽しく入浴ができるよう工夫している。入浴時間は、職員と個別の関わりが持てる時間として、利用者の話をゆっくり聴いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理な活動は提案せず、その方らしい生活の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬開始後は特に作用の振り返りをしながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	提案をしながら過ごして頂いている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でできる範囲での支援をしている。	コロナ禍で、外出行事が実施できないこともあったが、状況を確認し時期をずらして初詣に出かけた。今後は花見やドライブ等、外出の機会を増やす予定である。近所への散歩や買い物、ゴミ捨てや洗濯干しなど、外気にふれる機会をつくり、常に気分転換が図れるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で、買い物自体行けていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設への用件で電話を受けた際に、できるだけ取り次ぐように努めている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場であることを念頭に置きながらの支援に努めている。	リビングは、窓がたくさんあり明るく、職員は、採光や温・湿度に気を配り管理している。利用者と一緒に手作りした季節の作品や写真が壁に飾ってある。時計や手作りの日めくりカレンダーは、利用者の目に付きやすい場所に掲示している。廊下にソファや、外にはベンチが置いてあり、利用者はリビング以外でも、お気に入りの場所で過ごせるようにしている。ソファで利用者同士がくつろぎながら交流したり、天気の良い日にはベンチでおやつを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等や、廊下に椅子を準備している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物のご持参を促し、快適な空間作りに努めている。	入居時に、使い慣れた家具やテレビを持ち込み、好みに合わせて設置している。電動ベッドが必要になった時には事業所で用意している。ベッドや家具の配置を変更する場合には、家族にも相談している。温・湿度は職員が管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、わかりやすい案内も活用しながらの支援に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500480	事業の開始年月日	2018年4月1日	
		指定年月日	2018年4月1日	
法人名	コスモスケア株式会社			
事業所名	グループホームコスモス八乙女 ユニット名：たんぼぼ			
所在地	(〒 981-3135) 宮城県仙台市泉区八乙女中央3丁目9番23号			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2023年3月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットの理念 1、思いやりのこころ 2、チームの一体化 3、みんなが笑顔で過ごせる場所を掲げています。
コミュニケーションに消極的な入居者様も、話しかければ会話が花が咲きます。お邪魔にならない配慮はしながらも、職員から積極的に声をかけ、日々生き活きとした生活が送れるように心がけています。
食事作りに力を入れ、入居者様の趣向を聞き出しながらのメニュー作りも行なっています。味はもちろん見た目にも楽しい行事食を作るなどの演出が好評です。
コロナ禍で感染状況も見ながらではありますが、令和5年度は外出頻度を増やしていきます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年3月6日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

すみれユニット ①感謝する心②お一人お一人に寄り添う心③支え合えるチーム創り
たんぼぼユニット①思いやる心②チームの一体化③皆が笑顔で過ごせる場所

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人「コスモスケア株式会社」は、2000年に創業し「利用者様主体のケア」「地域福祉の向上」「介護サービスの向上」を運営理念に掲げ、仙台市を中心に訪問・通所・短期入所・福祉用具・小規模多機能型居宅介護など、25事業所を運営している。事業所は地下鉄八乙女駅より徒歩5分ほどの住宅地の一面にある、2階建て2ユニットで運営しており、敷地内には法人本部がある。近隣には七北田川が流れ、七北田公園の四季折々の自然が楽しめる。保育園、コンビニや商店等が近くにあり、利便性が良い環境である。

【事業所の優れている点・工夫点】

運営推進会議は、町内会長、地区社協会長、地域包括職員が本社に集まり、Webカメラで事業所の様子をライブ配信し状況報告を行っている。火災・地震の他に風水害時の避難計画書が作成され、敷地内にある法人本部と協力体制が構築されている。看護師が配置されており、医療連携が図られ、看取りの実績もある。一人ひとりに合わせた支援方法について、ユニット職員全員と他ユニットの職員からも意見を聞いて評価する等、チームケアを実践している。キャリアパスの導入や資格取得支援制度があり、全職員が法人内部や外部研修へ参加できるよう取り組んでいる。海外留学生の短時間雇用や、週休3日制を導入し働き方を選択できるようにする等、職場環境を整えたことで残業時間が減少したり、リフレッシュの機会が増えるなど改善に繋がった。食事委員会の担当職員が献立を考え、季節の旬の食材を取り入れながら調理している。また、おやつをバイキングにする等、利用者が自分で選択できるメニューを取り入れたり、楽しい食事になるよう工夫している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホームコスモス八乙女
ユニット名	たんぼぼ

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス八乙女 ）「ユニット名:たんぽぽ」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念 1、思いやりの心 2、チームの一体化 3、皆が笑顔ですごせる場所を毎日唱和している。	職員は理念を朝礼で唱和し、年度末にケアの振り返りを行っている。運営上の改善策や、ケアの見直し時などにも職員から理念を意識した発言や意見が出されることもある。職員全体で、チームケアを意識し、互いに思いやりを大切にしながら実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	雪かきは、近隣まで手を伸ばして実施している。町内会の花壇の一部を任せて頂いている。	コロナ禍で、地域行事への参加やボランティアの受け入れは自粛していたが、町内会長とは情報交流を図るなど関係継続に努めている。町内会の花壇の手入れや近隣商店での買い物、散歩時に挨拶を交わすなどの交流を継続し、近隣の高齢者宅の雪かきをする等、事業所でできる範囲の地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域との交流はほぼない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回開催している。	メンバーは、町内会長・地域包括職員・地区社協会長・法人本部課長・管理者である。町内会長、地区社協会長、地域包括職員が本社に集まり、Webカメラで事業所の様子をライブ配信している。2ヶ月に1回、会議を開催し運営や利用者状況の報告を行い、助言を得ており、参加できなかった委員には報告書類を送付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との直接のやり取りは、介護保険法令等の内容確認にとどまっている。	介護保険や後見人制度などについて相談している。生活保護課の担当者とは、常に連絡を取合い連携している。市担当者には、外部評価結果や目標達成計画を提出して情報共有している。各種情報交流が図られるような関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グレーゾーンの事例検討など、取り組んでいる。	毎月ユニットごとにケアを振り返っている。3ヶ月ごとに報告事例からテーマを絞り、身体拘束廃止委員会で話合っている。発生した時の背景や理由を確認し、適正な対策を検討後に記録し、改善できたかを評価している。防犯上、玄関にセンサーを設置し、居室には、状況によりセンサーや介護ロボットの予測型見守りシステムを活用している人もいる。使用する場合には、家族へ説明し同意を得て、必要の有無を適時検討し、意識して取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修機会を設け、努めている。	マニュアルを基に研修を行い、ケアを振り返りながら知識の確認などしている。ミーティング時には、利用者の状態を職員で共有し、常に職員同士で声をかけ合える環境づくりに努めている。上司は職員と年2回面談し、メンタルヘルスケアを実施している。利用者の状態により、介助方法の見直しも行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加するなど、知識を持つことに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にはおよそ2時間ほどかけて、質問も受け付けながら説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	適宜、家族に連絡を取った際にはご意見を伺うようにしている。	窓越しでの面会を継続し、家族から意見・要望が聴けるように取組んでいる。また、介護計画作成時にも家族からの意見や要望を聴いている。コロナ禍時、家族からの要望は、直接顔を合わせて行う面会、利用者の部屋への入室、一緒に外出がしたいなどがあった。要望は状況を確認しながら、都度判断して対応している。家族同士の交流の機会はなく、最近では、運営推進会議への出席もない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや面談の機会を設けている。	年2回の個人面談、毎月のミーティングや随時、意見や要望を聴く機会を設け検討している。休憩スペースを設けて欲しいとの要望に応えたり、他の要望も検討している。週休3日制を導入し、働きやすい職場環境を整えたことで、残業が減ったり、リフレッシュの機会に繋がったりした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を整え、努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修機会を設け、努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内他事業所と一緒に参加する研修や、ミーティング等を設けている。	法人主催の研修もしくは外部主体の研修に全職員が1回以上は参加している。同法人の他事業所の職員と研修を通して交流する機会があり、情報交流を行ったことで各自が自信をもてるようになる等、意欲向上や技術向上に繋がっている。また、管理職同士の交流があり、情報交換等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当や管理者が中心となってアセスメントを取り、入居後はユニットの職員を中心に関係作りに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は特に細かく連絡をとりあうことで、関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントとの相違がないかを確認しながら、その時に必要なサービスについては都度検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることを念頭に置きながらの支援に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の力と施設の力はそれぞれであることを念頭に置きながらの支援に努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出は難しいが、できる限り努めている。	面会はオンラインでも可能であるが、リビング等での窓越しの面会がほとんどである。絵手紙を出したり、毎日電話するなど、本人の希望を聞きながら関係が継続できるよう取り組んでいる。リビングにも家族写真を飾り日常的に話題にするなど、工夫しながら関係性が途切れないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えも随時行いながら、良好な関係性構築と継続に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去での退居ではあるが、連絡を取った際はコミュニケーションに配慮しながら心情や近況を伺うようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活のなかで、本人の思いを汲みとれるように努めている。	家族から嗜好品や習慣などを聴いている。利用者の思いを汲み取れるよう、言葉かけや質問の仕方等を工夫し、職員間で検討・共有している。プライバシーに配慮し、居室でゆっくり話を聴くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期のアセスメントに加えて、日々の会話のなかでも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティング等を通じて努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者の意見を踏まえながらの作成に努めている。	介護計画は、3ヶ月あるいは6ヶ月ごとに見直している。利用者・家族の希望を確認し、全職員からも利用者の様子を聴き取っている。医師や看護師の職員からの意見を聴く等、医療面も合わせ全体的な視点から利用者の状態を把握している。収集した情報から、利用者主体のケアを実践できる介護計画を作成し、チームケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を含めた情報共有を通して努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関係者の意見を踏まえながら、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は十分ではないが、支援に努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一方的に決めることなく、必要な医療が受けられるよう情報提供に努めている。	利用者の希望するかかりつけ医を受診できるが、ほとんどが協力医療機関による往診を受けている。外部受診の際は、原則看護師の職員が同行で、希望により家族も同席することもある。利用者の状態を文書にまとめ、他の職員も確認し、医師に伝えている。受診結果は、家族に報告・説明等を行い、職員間で情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携を重要視して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	カンファレンスの開催を依頼しながら必要な連携が図れるように努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Drの意向を踏まえながら、施設側からの確認も多く行いながらの支援に努めている。	契約時に「看取りに関する指針」を説明し、看取期には再度説明をして同意を得ている。看護師の職員を配置し、医療連携体制が整えられており、看取りの実績がある。看取り介護計画を作成して、職員間で共有しながら支援している。看取り時には、家族も一緒に泊りながら過ごすことができる。年1回、職員研修を行い、看取り後の振返りは本社課長も参加して行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応のマニュアルにそって、事例も踏まえた情報共有に努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応のマニュアルにそって共有しており、また、運営推進会議において、地域との関係作りに努めている。	災害マニュアルの他、風水害時の避難計画がある。年2回避難訓練を行い、内1回は夜間想定訓練を実施し、振返りを行い検討事項を記録して、運営推進会議時に報告している。災害時は、法人内の他事業所への避難も想定し連携を図ることや、感染症対応策の仕組みも整えている。備蓄品は5日分を建物内に保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの見直しも適宜行いながら支援している。	年1回、研修を行っている。ヒヤリハットの事例を挙げ検討したり、その都度、職員間で話し合う機会を設け、職員同士で注意喚起しながら支援している。利用者への声のかけ方やコミュニケーションのとり方なども意識し、体験から学びを得て改善に努めるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援を意識しながらのケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様主体のケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には服装も選択して頂いている。季節感のない服用などについては、自尊心に配慮しながら一緒に行なっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	部分的にでも一緒にできるように支援している。	食事委員会を設け、職員が献立を考え、季節の食材を取り入れ調理している。法人の管理栄養士に、定期的なチェックや相談をしている。利用者は盛り付けなど、できることを一緒に手伝っている。利用者の嗜好に合わせ選択できる機会を設け、ラーメンは味噌か醤油を選べたり、おやつはバイキングにする等、工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養補助職員も活用しながら提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に検討した回数で口腔ケアをしている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り自立した排泄ができるように努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、その人のタイミングに合わせてトイレで排泄ができるように誘導し、自立に向け支援している。自立度の高い利用者も排泄状況を記録し、状態把握に努めている。夜間は睡眠を妨げないよう配慮して、トイレ誘導や、排泄用品の活用をしている。軽運動と食物繊維の摂取により便秘予防している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけではない支援に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	三日に一回を基本とし、希望次第では日にちをずらしながら支援している。	入浴は基本3日ごととし、日中の時間帯に希望や状態を確認しながら入浴している。浴室の壁に飾りつけをし、行事湯（ゆず湯・菖蒲湯）等、楽しく入浴ができるよう工夫している。入浴時間は、職員と個別の関わりが持てる時間として、利用者の話をゆっくり聴いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理な活動は提案せず、その方らしい生活の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬開始後は特に作用の振り返りをしながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	提案をしながら過ごして頂いている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でできる範囲での支援をしている。	コロナ禍で、外出行事が実施できないこともあったが、状況を確認し時期をずらして初詣に出かけた。今後は花見やドライブ等、外出の機会を増やす予定である。近所への散歩や買い物、ゴミ捨てや洗濯干しなど、外気にふれる機会をつくり、常に気分転換が図れるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍ではあるが、希望のある入居者様とは近隣の限られたお店への買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設への用件で電話を受けた際に、できるだけ取り次ぐように努めている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場であることを念頭に置きながらの支援に努めている。	リビングは、窓がたくさんあり明るく、職員は、採光や温・湿度に気を配り管理している。利用者と一緒に手作りした季節の作品や写真が壁に飾ってある。時計や手作りの日めくりカレンダーは、利用者の目に付きやすい場所に掲示している。廊下にソファや、外にはベンチが置いてあり、利用者はリビング以外でも、お気に入りの場所で過ごせるようにしている。ソファで利用者同士がくつろぎながら交流したり、天気の良い日にはベンチでおやつを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等や、廊下に椅子を準備している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物のご持参を促し、快適な空間作りに努めている。	入居時に、使い慣れた家具やテレビを持ち込み、好みに合わせて設置している。電動ベッドが必要になった時には事業所で用意している。ベッドや家具の配置を変更する場合には、家族にも相談している。温・湿度は職員が管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、わかりやすい案内も活用しながらの支援に努めている。		